

みると、中々善良ないい人間ですね、どうりう人間の、人間の悲哀感いうもので、私はぬそりいうもの、ものすごくひかれましたよ、人間的に、人間の悲哀感いうもの、どうにもならないものね、そういうものの、心ひかれましたね、なにかそういうものの庄から、救われるような、なにかつくつてあげないかんなど、マ、こういうことを考えておつた向けなんですね。

たまたま最初、暴動の事件をまのあたりに見てですか、そして、私がこの“せんりつ”といふ詩を作ったんですね。

松原 忙 その時、井上青龍氏もね、これに協力してくれてね、その創刊号をするときがり切りを手伝ってくれたりしてくれましてね、それを今みたら、みな筆跡が違いますからね、創刊号だけは本当に思い出のある雑誌ですね。

アナランサー 井上さん、あの事件以後ですね、労働者の中でも組合を作ろうといつ動きがおこったんだそうですね。

トヤを現住所としていいから、で、手帳の発行、それで冬場は、三角公園、テントをはりましてね、そこには無料で宿泊させる、それで五月には越冬の焼き出しがとが、

アナランサー 最初百五十人でスタートした組合が、やがてハ百人ぐらりまでになる、大大変な力になるわけですね。

#上青龍 なんかの時にデモをかけるとかね、アナランサー それほど二へ行くんですか。

井上青龍 それは市役所とかね、我々の事務所は郡さん、あのとなりでしたからね、川さわがだから、押しかけるといつより、ラン、ま、郡さんにこたら押しかけられたと思つかれませんね、マ、ずいぶんつるしあげには行きましたよ。

アナランサー 分室ができたことによつてですかね、暴力手配師は大部少なくなつたんですね。

郡昇作 あの当時はね、ええ、山田組が、名前りうてもいいからけれども、マでますから、二百人、それから山桜組でいいて天王寺公園を根城に百人、合計三百人ぐらり手配師があ

井上青龍 ええ、そりです、あの組合の結成には、もう僕達は最大の期待をかけてあつた。望みをかけたといつが、マ、僕はあの組合結構大会には、マゼはり写眞の連長で、写眞をとらせてそらいに行つたんですね、とうするところから外に出て、壁々と写真がこれる二とになつたといつが、どうりうメリットがあつたんですね。マ零真をどうだけじやすまなくなつた、本当にうるんな活動に僕自身参加せざるをえないといつが、僕の心情的に、僕はカメラを捨ててでもやろうといつが、うん、大会の選挙で、委員長がソルカサ君といつ、なんか日大の大学出なんですね、インテリ、理論者で、それで副委員長が手配師あがりのサトウ君といつ、マア見事におもしろい、こう、コンビ、組合させといつが、マ、まさにこの二人の組合わせの時、拍手喝采といつがね、どつとわりたんですね。

アナランサー 行政とのかかわりはいかがだったんですね。

井上青龍 マア、そのころからでも大部分が住所不定者であるし、だから当然失業保険も、健康も、なにもとれないから、今、住んでるわあつといつ。

あの日雇いの組合でも、副委員長さんがやっぱり手配師ことつた方ですかね、これははじめはこれは日雇、組合のためにできた分室、リヤ、日雇の組合だから、日雇のために努力する分室やから、協力してもらえる思つとつたら、はじめのうちはどうつづらそらはうはうはん、毎日つるこあげにくるわけですね。

アナランサー 組合は、副委員長さんからまさにせざれんとしている状態である、といふボスターといつますかね、はり紙が出たわけですか、これに象徴されるように、ずいぶん短い期間で組合も衰退していくわけですね。然の一つといつが、マ、一つに、組合の小さ

リ、ほつたて山屋の事務所が焼き打ちをくらつたんですね。我々は当局がやつたと思つただけど、当局はヤクザがやつたといつね。いや、我々はその両方が組んだんじやないかといつね、そこには推理はりつたんだけど、それ以上に我々のふなれな組合の活動といつね、行政に対する力もなかなか打ち出しえないし、マ、そういうするうちに、多くの組合員が、我々た、りわゆる組合に失望するとりうか、うソ、いろんな意味で失望のうえに金ヶ崎にきたのに、やつと一つ組合に希望をもつたのに、再びまたなんか組合に失望したところが、で、段々移々離れてりつて、マ、我々も逆に組合員に月三十円、五十円の組合費され、中々それも入れてくれない。活動ができないと、そのアピールは常にここんでりうか、もう本当に疲労こんぱりとりうか、もう、組合はもう、組合の役員とりりながら働かないとメシくえませんからね、だから沖仲仕やりながら組合活動、それを大変なことだつたと思つますよ。

アナランサー やはりあの組合は、やはり力不足だつたとりうどこうでありますか。

井上青龍 ええ、力不足もなにも、まったく力を出したことまんまだつたと思つんですけどね。といつことはね、あの、ざいぶん外からオルダも入り込んできましたがね、と同時に

会員が、そり書きましたけどね、といつて、二の会員が書くものを私が裸の会の主宰としているからいってね、そりいきものを、都合の悪いものをのせんといつわけにはりかんでしょう、私としてはですね、だから、そりりうもたですよ。それ、マ、そりりうことがあつたもんで、マ、私にですね、これから裸の、のせる原稿としてからのせるようにしてくれば、こういふふうに、そり、りわがましたかね、私はそりうことはがんとて受け付けなかつたですよ、昔の換閑制度と一緒にですからね、そりうことやると、そりりう考えから裸の会とて仕事を始めたんですね。

マア、ああいうことを始める一とによつてね、地区住民がやはり、その自然とね、警察官に間接的にも、警察官に好意を持つてゐる、私好意を持つてくれる、そういうアラスの面もね、出てくるんじやないかと思つて、マア、そういう面で、裸の会につきまして

に、ちゃんとしたバツつもね、總評なんかも力を貸そうとしたんですね、やはり、我々の組合は、やはり労務者が我々を信頼しなかつたと同じように、我々の組合も逆にその大きさを信頼しなかったですね、我々の手でりうね、かほそりながらも我々の手でどう、かりながらも我々の手でどう、多分にそれがあつたんですね。

松原忍 いろんな、そのう、面におきましてねえ、もう、なんといりますかね、そりや苦勞もありましたですよ、発行するにつきましてね。たとえば、裸の雑誌、大きく成長するに、いくにつれましてですね、マア、監査がですな、裸の会を自分、監査が主宰するようながつこうにもつてりつて、一うちりマア態度に私、見受けられたんですね、たとえば、会計の帳簿をみせえ、とか、あるのは、裸のせる原稿はね、一応警察の幹部に目をどうしてもらつてくればと。

アナランサー 一一の裸の雑誌、必ずつとひもと見て見ますとね、りわゆる行政批判といつものもかなり随所に出てまいりますねえ。

松原忍 それで私、苦勞したんですね、私はたまには書きましたしねえ、二リヤさうつたりうことは、マア、結果的になれば、こりうとはみだしたがたちなんですか、結構、それが、それをやつてこそはじめて本当の仕事ができたんじやないかと思つんでですよ

井上青龍 昭和四六年、松原さんの西政警察署退職と共に、九年間あまり続いた裸の会は解散した、との間、毎月休みなく発行されてきた会誌、裸も百十号をもつて幕を閉じた。

アナランサー 井上さんにとって金ヶ崎とはなんですか。

井上青龍 うん、それをりわれるところと弱りんですけどね、といつことは僕の中で、二十年たつた今でも未解決のまんまとりうかえく、僕は今まで毎月一回くらりは金ヶ崎をおとずれまして、酒をくらつて、ホルモンをたまで、そ處でりうん人と話をすりませんけどね、あろん写真は今はとつておりません。テーマも次に移行しましたのでね、とつてりうんだけど、僕は今でも毎月一回くらりはりうんですけど、これがものとりうが街そのものは、外鏡はかりましたね、しかし、やはり中に住んでる人の人間性、あるいは行

政の有り方、それに対応した人間性の問題、それは何一つかわっておりと思ひますよな、ええ。

その後も事件はくりかえされた。のまどめでは、昭和四八年までに二一回に方よんでいる。

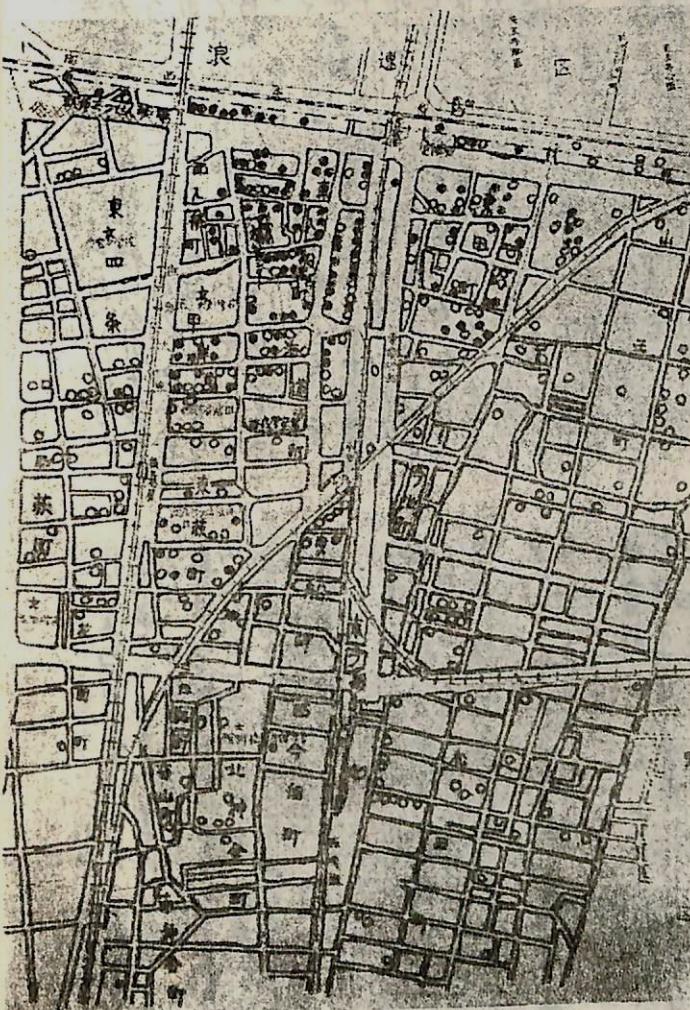
いま、二十年前にくらべ街の外観は一変し

た。事件がおこったびに行政による、福祉や

労働者策を少しすつ込み、名前をあいりん地区と呼ぶ。かつてのトヤモードビルに並ぶが、かねはじめた。しかし、いくら街のよさがわかるところ、ここがあいまう。多医療大の日雇い労働市場であることにかわりはない。

現在、日雇い労働者の数は一万八千人余りといわれている、そのうち、住民登録をしている人は二十%にすぎない。

〔釜ヶ崎地区、簡易宿所・日払アパート・旅館分布図〕



<1961年作成>

印は求職登録者のいるドヤ

印は一般旅館をも含むその他のドヤ

ニッポン釜ヶ崎一地圖になつて、大谷洋郎著より